

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------|
| 報告タイトル                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 日本国内における原子力政策に対する市民の活動に関する調査 |
| 報告者所属名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 比較文化学専攻(国立民族学博物館)            |
| 報告者氏名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 玉山 ともよ                       |
| <p>● 調査の目的・概要</p> <p>アメリカ合州国ニューメキシコ州の原子力政策に関する市民運動と比較検討するために、日本国内における原子力政策に関する市民活動について短期フィールド調査を実施した(期間: 6月21日~24日)。具体的には六ヶ所村における原子力発電所から排出された放射能性廃棄物の再処理工場が、11度目の延期を受け2008年2月に本格操業するということについて、6月22日の夏至の日に向けて島根県出雲地方より六ヶ所村での再処理工場を再考するための市民行進「ウォーク9」と、六ヶ所村内で6月23日・24日に行われた「アースデイ六ヶ所」について参与観察を行ったものである。同時に国内の原子力政策について、特に六ヶ所村再処理工場を運営する(株)日本原燃所管のPRセンターを見学し、国策として推進する原子力エネルギー政策、核燃料サイクルがいかに語られているかということについて調査した。</p> <p>博士論文は、アメリカ南西部におけるウラン鉱山の先住民コミュニティへの影響が主なテーマであるが、執筆のための調査を行う際に合州国内およびニューメキシコ州内の核エネルギー政策が大きく関連しており、放射能廃棄物の処理に関してはウラン残土から使用済み核燃料等多岐にわたってこの廃棄物処理ならびに利用の計画は、GNEPと呼ばれるブッシュ政権のグローバル核エネルギーパートナーシップの政策の一環であるため、日本の状況と比較しながら国際的な観点でアメリカでのフィールドワークを行う必要がある。その一連の研究の中で日本の市民運動に着目したものは少なく、今回は特に六ヶ所村再処理工場に関する運動についてのフィールド調査であった。</p> |                              |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div> <p style="text-align: center;">©Greenpeace/Gavin Newman</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                              |
| <p>● 調査の背景—六ヶ所村再処理工場が本稼動することによってどうなるか？</p> <p>1 核再処理施設とは？</p> <p>全国 55 基の原子力発電所から排出される使用済み核燃料からプルトニウムを取り出す施設で、それにウラン燃料と混ぜ、新たにMOX燃料として原子力発電所で再び使用する＝核燃料サイクル。しかし全量再処理されるわけではなく、新たに核廃棄物を生み出す。</p> <p>2 再処理で放出される放射能の影響</p> <p>再処理工場が本稼動すると、空にはクリプトン 85 という放射能がチェルノブイリ 原発事故の 10 倍放出され、海には、トリチウムやヨウ素 129 などの放射能が、2 日に 1 回 600 トンも放出される。200kg ドラム缶に換算すると、1 回に 3000 本、月に 4 万 5000 本、年間では 54 万本になる。</p> <p>原発 1 年分の放射能を再処理施設は 1 日で出し、海流に乗って三陸沖から房総半島一帯までの水産資源が汚染される。仏のラ・アーグ再処理工場、英のセラフィールド再処理工場周辺では小児白血病が多発している。また工場内作業員の被曝労働を前提としており、長期的に見た内部被曝の影響が懸念されている。</p>                                                                                                                                                                                     |                              |

● 日本の原子力政策に反対する、反原発運動の現在

- ・建設費約 2 兆 4 千億円
- ・40 年操業後、閉鎖時に解体するまでの総額 19 兆円
- ・再処理を含む核燃料サイクル全体、総額 43 兆円

「おむすび巡礼」と銘打った「ウォーク9」は、熊本県のアンナプルナ農園を主催する正木高志氏が提唱した、春分の日から夏至の日まで島根県より原子力発電所立地地点を数多くめぐりながら北上し青森県六ヶ所村へ、おむすびを自ら結びながら（自炊しながら）、植林しながら巡礼を行うもので、日本各地の反原発市民グループならびに平和活動を行うグループと交流しながら、単なるデモ行進などではない、ディープエコロジカルな精神の内的探求を含む旅を参加者に提供したものであった。この行進にかかわった総勢は不明であるが、1 日限りの参加者ならびに正木氏の講演聴衆を含むと 2000 名はゆうに越えると思われる。参加者は、六ヶ所村再処理工場の本稼動に反対し、その反対の意思を行進ということによって表明している。日本の神道や縄文文化、世界各地の先住民思想を取り入れ、自然との共存を極めてスピリチュアルな立場から“体感”することに重点を置き、正木氏のいう「グラウンディング」、すなわち「自然のおかあさんに帰ること」を重要なメッセージと捉えている。（<http://walk9.jp/> 参照）

「アースデイ六ヶ所」は、六ヶ所村内の大石総合運動公園にて行われたキャンペーンを含むイベントである。フェアトレード・オーガニック食品販売・ヒーリング等、多種多様の出展ブースに加え音楽コンサートが催され、ほとんど村外からの六ヶ所村再処理工場に反対する市民によって参加、運営された。（<http://shalina.or.jp/~yuta/ed6/> 参照）

また、前日の 6 月 22 日に日本全国で配布された TEAM GOGO による号外新聞「30 秒で世界を変えちゃう新聞」もアースデイ会場で配布され、発案者の一人である中村隆一氏がその中で再処理工場の稼動に関して広範囲な環境汚染や被曝の懸念を表明するも、地球温暖化などの環境問題の一問題として、個人の生活レベルからの意識改革を啓発がメインで、直接的な再処理工場の本稼動反対に関してのアクションだけを促すものではなかった。

（<http://www.teamgogo.net/top.html> 参照）

● 調査結果および考察

現在の反原発運動の活動の表れとしては、あまりにも国策としての原子力エネルギー推進政策がかたくなに行われており、六ヶ所村再処理工場関連投資だけですでに 2 兆円を越えている現実から、すでに施設は 99%以上建設がなされており、この段階で稼動を阻止する運動を展開するにあたって、「ウォーク9」「アースデイ六ヶ所」とも、意識啓発に力点が置かれソフトな形で村外者中心による反対運動に終始している、あるいは依然として社会的関心の低さからそうせざるを得ない状況にある。反対に村内では 4 割以上の住民が日本原燃等の原子力産業から経済的恩恵をすでに受けており、地道な反対運動を行っているものはごくわずかな限られた者のみという状況になっている。

六ヶ所村再処理工場を含む関連施設に関する市民活動は、単なる反対運動ではない多面的な要素を多々含む反面、かえって反対と唱えることが非常に難しく、村民の意識と村外の者との意識の遊離が起こっていると考えられる。村内で反対運動を行っている市民は菊川さん等大変少数派で、むしろ村外で多く反対運動が行われている。20 年以上かけて浸透した原子力と共存するという村の方針はすでに確固としたものが形成されているように思われ、逆に言うと原子力を受け入れなければ経済的に存立できない村として、六ヶ所村から原子力産業を排除することはもはや困難になっているのではないかと考えられる。

原子力発電の推進という国策の、莫大な経費のかかった展示の数々を六ヶ所村では散見する

ことができたが、いかに問題の本質がすり替えられ、様々な展示手法で見学する者をたった一つの「再処理工場は安全と環境に配慮しています」という答えにしか導かれないようになっているかということは大変問題である。人口の少ない訪れる者も非常に少ない辺境の地に、莫大な何兆という税金をつぎ込むその経済的感覚は、原子力エネルギーの推進のためにはジャブジャブと湯水のように血税をつぎ込んで良いという麻痺状態に陥っており、その口実として地球温暖化はこれからもますます利用されるであろうと考えられる。